

気になる家族への支援

気になる家族の場合にその原因は様々であり、その原因を明らかにして支援をすることが重要である。

気になる家族の状態

- ・子どもに起因するもの（発達障害、先天性疾患、後天性疾患、小児特定疾患等）
- ・親に起因するもの（産後うつ、統合失調症などの精神障害、知的障害、子育て経験等）
- ・親子関係に起因するもの（親子の相性、多胎児等）
- ・親子をとりまく環境に起因するもの（貧困、父親・祖父母の協力、次の子の出産、転居等）

望ましい対応

① 子どもに起因する場合

保育中の日々の子どもの様子、たとえば「お集まりの時に自分の気に入ったところで過ごしている」のように、「座ってられない」という否定的な言い方はせずに事実を保護者と共有する。保育園の対応を伝え、一定期間対応しても変化がない場合や保護者が心配した場合には関係機関への相談を勧める。

② 親に起因する場合

保護者の成育歴を丁寧に聞き、保護者の気持ちや考えに寄り添う。必要に応じて、保護者自身の相談機関を提示し、すでに受診・相談している場合には連携できることを伝える。

③ 親子関係に起因する場合

家庭での様子を聞き、保護者が困っていることや育てにくさを感じている場合には、家庭と園でできる具体的な方策を一緒に取り組む。必要に応じて相談機関を紹介・連携する。

④ 親子をとりまく環境に起因する場合

日頃から家庭環境について保護者と話ができる関係を築いていることが重要である。その対処には地域の資源を活用することが想定されるため、地域の資源に熟知しておく必要がある。

避けたい対応

- ① 気になる場合に、担任のみで抱え込むことなく、組織で共有し、組織で対応する。
- ② 子ども様子や家庭の状況を否定的にとらえない。
- ③ 対応を家庭や関係機関だけに求めず、園での対応も同時に行う。
- ④ 関係機関を紹介して終わりにせず、経過を一緒に見守るようにする。

相談の場：子ども発達センター 市区町村 児童相談所 医療機関